

令和6年度 いのちの授業 事例集（小学校）【特別活動】

掲載数

83

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小6	特別活動	思春期の心について考えよう	高学年になるとSNSや人間関係のトラブルに対する悩みをもったり、妙にイライラしてしまったりして心が落ち着かないことが起きやすくなる。そこで心の動きや変化に伴っての対処方法についてクラスごとに話し合う授業を行った。話し合いは少人数で行い、相談する側とされる側に分かれながら進めた。話し合いの後は、「対処方法が増えた」「友達と同じ行動だとわかり、安心した」「相談したりされたりするときの言葉を選ぶ必要を感じた」などの感想が寄せられた。	6学年担任と養護教諭の ティームティーチング
2 川崎市	小複合	特別活動	野菜を育てよう	今年トウモロコシを種から植えて育てた。収穫をして食べる一連の学習を通して様々な学びの場面があった。 ・育てる楽しさと苦労から、成長の喜びを分かち合う。 ・育てて食べるまでの流れを体験することで食べ物を大切にする ・畑作業を手伝ってくれる方への敬意や感謝をもつ。 ・皆で収穫を喜ぶことから仲間意識の向上、一つの食べ物を口にするまでの沢山の人がかかわっていることを体感する。 人として大事なことを児童の実態にあった学びが膨らんだ。	理科支援員と支援級担任の ティームティーチング
3 川崎市	小複合	特別活動	運動が脳に与える影響	大学教授を講師に招き、4～6年生児童及び保護者、地域の方を対象に、学校保健委員会を開いている。小学生時期が一番運動能力が伸びる時期であること、様々な運動を経験することが健康な身体づくりにつながること等を学んだ。運動には大きな運動から指遊びのような小さな運動まで含まれる。楽しく身体を動かしながら、科学的な側面から運動を捉え、健康な生活に向けての関心を高めた。	4～6年児童、保護者、学校運営協議会委員が参加
4 川崎市	小1	特別活動	食育「いろいろたべよう」	3匹のこぶたの紙芝居から、それぞれの食事の違いについて考えた。そして、元気な体をつくるためには、好き嫌いせずにバランスよく食事をするのが大切だということに気がついた。 授業後1週間の毎回の給食で、自分のめあてや振り返りを記録することで、普段は残してしまうものを食べ切れたり、苦手な食材にも挑戦したりする姿が見られた。 子ども自身の食事に立ち返ることで、いろいろ食べることの大切さについて学んだ。	講師：本校栄養教諭

5	川崎市	小5	特別活動	産まれる前の私たち・これからの私たち	人の誕生について、保健に携わる講師の助産師から、思春期の心と体の成長に関して疑問に持つ部分や悩む部分を知識として教わった。性の捉え方は一人一人違うことや、性の多様性は言葉の理解ではない等、それぞれが尊重されるということを指導していただいた。学校司書と連携しながら図書室の関連書籍を教室に配置して、初めて知ったり難解だったりした言葉を調べ、学習が日常に生かせるように支援を行った。	講師は、聖マリアンナ医科大学病院の助産師3名とスタッフ4名。 事前に養護教諭が講師と連絡をとりながら調整を行った。
6	川崎市	小6	特別活動	性の多様性プログラム『らしさ』ってなんだろう	ゲストスピーカーの体験談を通じて、性の多様性について知り、誰もが自分であることを大切にされたい気持ちをもちながら安心して生活することの大切さを教えていただいた。授業終了後にトークタイムがあり、個人やグループでの質問に答えてもらった話したりすることができる時間を設けた。人間関係やセクシュアリティなどの相談にのっていただき、児童らが現在抱えている悩みを相談できる良い機会となった。	講師は、すくらむ21から派遣された講師が2名。 「性的マイノリティの人権（性の多様性）」
7	川崎市	小6	特別活動	命を救え「心肺蘇生法」	9月9日の「救急の日」にちなんで、6年生対象に養護教諭が、心肺蘇生法についての話と実技研修を行った。「命は一度失うと取り戻すことができない大切なもの。大切な命を守るために、自分たちにできることをしよう。」と投げかけられた児童は、傷病者発見から救急隊への引継ぎまでの流れを経験した。実際に心肺蘇生法にもチャレンジし、校内のAEDの場所も確認した。「いざという時には自分たちが取りに行けるね」と、自分ができることへの意識をもつことができた。	日本AED財団 減らせ突然死実行委員会企画・制作副読本「命を守る・心肺蘇生・AED」
8	川崎市	小2	特別活動	おへそのひみつ	まずは体の名前と働きを問い、おへその役割を考えてもらった。紙芝居を読み聞かせ、おへその役割と命の大切さについて話した。命は大切な物、自分の命だけでなく他の人の命も大切だからお互い助け合って過ごしていけるよう話した。 振り返りには「おへそってすごい」という感想の他に「産んでくれてありがとうってお母さんに言いたい」ということを書いている児童もいた。	担任と養護教諭 おへそのひみつ 「紙芝居」
9	川崎市	小複合	特別活動	自分も相手も大切な存在	自分の体は全部がプライベートだけれど、特に大切な「プライベートパーツ（口、胸、おしり、性器）」についてや、人との距離「境界線（ここまでは来ていいけど、ここからは入って欲しくない）」などの話があった。また、相手に「同意」を取るものの大切さ、相手がどう思っているのかを聞くことが大事であり、嫌なときには嫌と言っていいこと、逃げていいことを学んだ。子どもたちは真剣に話を聞いていて、授業後の感想から「自分たちはいろいろな専門家に見守られてきた命であること。いらぬ子は一人もいないこと。がんばって生まれてきた命であること。」が心に残っていた様子であった。	講師は、助産師の資格がある保護者
10	川崎市	小複合	特別活動	いのちの誕生	「いのちのまつり」という絵本の読み聞かせから、命がつながって今の自分があること。命は一人1個しかなく、ゲームみたいにリセットできないことの話があった。生まれるときには「命の道」「命の窓」があり、どちらも大事な生まれ方であることやお腹の中での赤ちゃんの様子や、お腹の中から生まれてくる時の様子を人形を使いながら説明があった。「いいタッチわるいタッチ」の読み聞かせから、自分を大事にできる人は隣の人でも大事にできるということやプライベートゾーンについても話が合った。授業後の感想では、何人もの児童が「命を大切にしたい」と書いていた。	講師は、神奈川県助産師会の助産師 ・赤ちゃんの人形 ・胎盤の模型 ・「いのちのまつり」「いいタッチわるいタッチ」の絵本 ・子宮の中で赤ちゃんが育つ様子の絵

11	川崎市	小1	特別活動	食育 「ぎゅうにゅう のチカラ」	給食で出される牛乳は、成長期の児童にとって大切な食品であるが、1年生には家庭で牛乳を飲む機会も少なかったり、牛乳のにおいや味に苦手感をもったりする児童もいた。また、気温が下がることで牛乳を残す児童も増えてきた。児童に、どうして毎日の給食に牛乳がでるのか考えさせ、栄養教諭からの牛乳の働きについての話を聞いた。牛乳を飲むとどんな良いことがあるか話し合い、それをもとに自分のめあてを考えた。めあてには、自分の体や心のことだけでなく、仔牛のための牛乳を分けてもらっているから大切にしたいというものもあった。	T1 担任 T2 栄養教諭
12	相模原市	小3	特別活動	命の大切さ	いじめられて変わっていく妹の話姉目線で描かれた絵本で、いじめをされた側はずっとふさぎ込んで生活もままならない中でいじめた側の子はいじめたことも忘れて楽しく過ごしている。授業では、著者の経験をもとに自分の経験と繋げて考えた。経験と繋げたことで、これからの生活をどうしていくのかを他人事ではなく自分事として捉えることができた。いじめはよくないと頭では分かっていたけれど、もしかしたら相手がいやな気持ちになっていじめをしていたのかもしれないと自分自身を振り返る児童もいた。	「松谷みよ子」わたしのいもうと
13	相模原市	小複合	特別活動	ふわふわ言葉	言われて嬉しい言葉があふれることで、あたたかい雰囲気学級の学級、学年、学校になることを各クラスで指導した。また、具体的なふわふわ言葉を子どもたちが考え、その言葉を集めて掲示物を作成した。年間を通してふわふわ言葉を意識させることで、自他ともに存在の大切さを感じられるようにしていきたいと考える。	各担任による指導
14	相模原市	小2	特別活動	防犯教室 「防犯から身を守る」	身の回りに潜む危険に対して、どのような行動が必要となるか学んだ。実際に起こりうる危険を講師の方が演じて、その際に気を付けるポイントを児童と考えながら授業を進めた。「いかのおすし」を意識することで、危険から自分の身を守ることができることを学び、これから命を大切にしようという気持ちが高まった。	講師は、ALSOKの方
15	相模原市	小2	特別活動	いのちのじゅぎょう ～プライベートゾーン・人のたんじょう～	助産師の方を講師として招き、「学校へ行こう週間」（授業参観）の中で保護者も交えて、いのちの授業を行った。プライベートゾーンについて、水着で隠れるところは触らないし人に見せないこと。人間の誕生の始まりは画鋏で穴を開けたくらいの大きさである。（いのちの始まりのカードを全員にプレゼントしてもらいました） 家族や友達や他者への思いやりや自分を大切に育てる授業をしていただきました。	助産師の方3名
16	相模原市	小5	特別活動	がん教育	保健の「心と体のつながり」の授業で、がんを経験されたゲストティーチャーの方のお話を聞きました。ゲストティーチャーの方のお話から、がんと闘う中で、家族や友人の支えがいかに大切なのか、そして、私たち一人ひとりが誰かに支えられ、今があることを改めて感じた。	

17	相模原市	小1	特別活動	「いのちあるものとの出会い」	<p>人権擁護委員の話聞き、花の苗の植え替えを実施。</p> <p>その後カードにこの花がどうなってほしいか、どうしてほしいかを考えて記入し、プラントナーに差し込み掲示した。周年行事で花を飾り、全校行事に1年生も携わることができたようにした。「自分たちが植えた花」を学校に飾ることで、いのちあるもの大切にしよう、大切にしてほしいとねがう心を育んだ。</p>	人権の花運動を実施したため、その一環として実施。
18	相模原市	小2	特別活動	命の誕生	<p>命が誕生するまでの過程や、母体の中で10か月の成長過程、生まれてくるときの胎児の様子や助産師さんの対応の仕方など、2年生にもわかりやすい表現や具体物を使って説明していただいた。</p> <p>一人ひとりの誕生には、それぞれのストーリーがあり、この場にいるみんなが、かけがえのない大切な命であることを実感できる時間となった。自分を大切にすること、他人を大切にすることが、太古の昔から脈々と受け継がれてきた命のバトンをもつ私たちの責任であることを児童、保護者、教員皆で共有できたことがよかった。</p>	講師 marimo助産院 助産師
19	相模原市	小5	特別活動	命の授業 「生命の誕生と、第二次性徴における体の変化について」	<p>前半の受精から体が形作られていくまでの過程、母親の体の変化、誰もが経験したことのある「生命の誕生」の瞬間について、具体的な模型や図を用いて説明をしていただいた。多くの人に愛されて生まれてきたこと、自分の意思で生まれてきたことを知り、児童らは「これから命を大切にしていきたい」と、つよい願いをもった。後半の第二次性徴における体と心の変化について教えていただいた。不安が解消され、児童らは「成長が喜ばしいこと」「成長には個人差があること」と、理解を深めた。</p>	講師 marimo助産院 助産師
20	相模原市	小3	特別活動	美沙さんの絵を鑑賞しよう	<p>「移動式MISA美術館」が本校で開催されることになり、初日に職員が鑑賞し、絵を見るポイントなどを学んだ。児童が鑑賞する前に「かなわね」という絵本を読み、美沙さんの特性や生い立ち、絵との出会いについて知った。実際の絵を鑑賞することで、美沙さんの「得意なことを伸ばしていこうとする前向きな生き方、自分の思いを絵に込めてみんなに伝えようと活動している強さ」に触れることができた。自分を含め、多様な人がいて、それぞれのよさを認め合うことの大切さについて考えることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニセフ「こどもの権利プロジェクト」</li> <li>・「かなわね」作・絵 大橋美沙</li> <li>・移動式 MISA 美術館</li> </ul>
21	相模原市	小2	特別活動	みんな大切ないのち	<p>生命の誕生は、奇跡的なことであり、誕生後は一日たりとも見放さない保護者の世話があったことについて学習し、自分も友だちも大切な命をもってうまれてきたことに気付かせたい。</p> <p>赤ちゃんが生まれるとき、狭い命の道を通して生まれてきたこと、そして生まれてからも保護者の世話によって成長してきたことに気付き、一人ひとりが大切な存在であることから、友だちと仲良くし、助け合う態度を育てる。</p>	性教育資料 イラスト
22	相模原市	小3	特別活動	大切な命	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張って生れてきた自分</li> <li>・自分と命を大切に</li> <li>・あなたを大切に思っている人がいえる</li> <li>・これから迎える思春期は乗り越えていく時期</li> <li>・たくましく生きていこう</li> </ul> <p>教科との関連（保健、道徳）</p>	助産婦さんを招き、話を聞く。 (子育てサポートハウス「marino」)

23	相模原市	小5	特別活動	大切な命	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホルモンの働きとしくみ</li> <li>・大人への準備と責任</li> <li>・思春期は乗り越えていく時期</li> <li>・体の変化、考え方、生き方の個人差</li> <li>・将来を描く（最終学年に向けて） 教科との関連（理科、保健、家庭、道徳）</li> </ul>	助産婦さんを招き、話を聞く。 （子育てサポートハウス「marino」）
24	相模原市	小複合	特別活動	生命（いのち）の安全教育	文部科学省「生命（いのち）の安全教育」の教材を活用して、自分と相手の心や体を大切にすること、よりよい人間関係を築く大切さ、性暴力の被害に遭ったとき等に適切な対応をする重要性などを指導した。児童は、これまでの学習や経験と関連付けながら、プライベートゾーンを守る大切さや自他を守る重要さを感じている様子であった。また、相手との距離感について、実際に体を動かして近づいたり離れたりで、互いに心地よく感じる距離が異なることを実感することができた。振り返りでは、「学校生活をよりよくするために、相手のことを考えて関わりたい。」「困ったときは大人に相談するようにしたい。」と振り返ることができた。	全学年で実施。 文部科学省のホームページにあるスライド教材や動画教材を活用。
25	相模原市	小6	特別活動	いろいろな性を知ろう	性について、4つの性（からだの性・こころの性・好きになる性・表現する性）で捉え、性の在り方について考えた。自分のことを見つめ、自分のことを理解するとともに、相手との違いやその多様性について考えることができた。また、「LGBTQ」という言葉とその意味、その人たちの生き方や思いを知り、自分らしく生きることの大切さを学ぶことができた。 児童の振り返りでは、「自分の知らないところで、傷ついていた友達もいたのかな。」「普段の生活でも、相手のことを大切に生活することができるように、自分にできることを考えて生活したい。」と、生活に生かそうとする姿も見られた。	養護教諭による授業
26	相模原市	小複合	特別活動	「命の大切さについて考えよう」	受精卵の成り立ちが奇跡的な偶然性をもって成立することや東日本大震災で中学生が亡くなっている事例を通して命の大切さについて考えたり、絵本を使って100万人の命が引き継がれていることを理解したりした。児童からは「命の大切さを知った。」「当たり前前と思っている今の生活を大切にしていきたい。」「両親に産んでもらった命を大切にしたい。」などの感想が書かれた。	5・6年で実施 命の授業ハンドブック いのちのバトン いのちのまつり NHK for schoolの5年生の理科
27	相模原市	小6	特別活動	薬物乱用防止教室	薬物乱用や喫煙が体に及ぼす影響や依存症の危険性についての説明を聞き、自分の身体を大切にすることについて学んだ。いわゆる危険薬物はもちろん、別の家族に処方された薬を流用することの危険性についても知ることができた。学習の最後には教職員を相手にして実際に薬物やたばこについて誘われたとき、上手に断ることができるかをロールプレイを通して学習し、理解を深めることができた。	学校薬剤師

28	相模原市	小2	特別活動	ともだちやもんな、ぼくら	自分とは異なった考え方、行動の仕方をする友達とも認め合い、友達のよさを実感し、話し合う活動を通して、友達と互いに仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。自分が困っていたり、寂しかったりしたときに、助けてもらったり、声をかけてもらったりすると、とてもうれしい。逆に、友達が困っている時には、相手の立場に立って、手を差し伸べようとする、相手もうれしく感じる。役割分担し、演じながら、体験し考えを深めた。	教科書
29	横須賀市	幼複合	特別活動	原子力災害から命を守る (防災教育)	原子力災害が起きた場合に、命を守る行動が自分でとれるようにするための知識を得るために、防災教育・避難訓練を行った。 資料を見て避難についての知識を得て、実際に災害が起きたらどのように行動すればよいかを各クラスで話し合い、確認することができた。	「わたしたちの生活と放射線」 横須賀市危機管理課 「小学生のための放射線副読本」 文部科学省
30	横須賀市	小4	特別活動	もしも災害が起きたらどのように行動するか	横須賀市で各校に配付されている「YOKOBOカード」(YOKOBO=横須賀防災の略)を用い、学習を行った。付属の「場所カード」を用い、地震が起きた時にいた場所を設定、火災発生などの二次災害が書かれた「二次災害カード」を用いて、二次災害を設定した。その情報をもとに、自分たちだったらどのように避難をするか、自分たちで考えさせ、避難行動に対する主体性を学習を行った。普段、指示に従うことを重視した避難行動であったが、主体的に考えようとする姿が見られ、命を守るということについてよく考えられていた。	YOKOBOカード
31	横須賀市	小6	特別活動	防災教育	防災教育では、地震対策をテーマに家庭と連携した授業を行った。授業では、地震時の優先順位を考える活動を通じて、大震災によって多くのいのちが奪われることや普段からの備えの大切さを学ばせた。家庭と一緒に防災について話し合う機会を提供することで、学校で学んだ知識を家庭にも広げ、自分のいのち・家族のいのちを守っていけることを目的とした。授業中には東日本大震災の最大震度の揺れの時間を体感させ、その恐ろしさと備えの重要性を実感させた。子どもたちは自分のいのちはもちろん家族や周りの人のいのちにも目を向け、日常的に備えることの大切さを学んでいた。	赤十字ホームページ
32	横須賀市	小2	特別活動	防災教育 「地震・津波からいのちを守る」	1月に地震を想定した告知なしの避難訓練を休み時間に行った。本校は、海を背に校舎が建っているという特徴から、地震があった時は、常に津波を意識した避難行動をとらなければならない。決められた高台まで自分で避難することをあらためて事前指導で行った。事後指導では、「自分の命は自分で守る」ことの意味を、避難の仕方を振り返りながら、具体的に理解するようにした。「みんなで助け合いながら高いところまでいくようにする」「先生がいなくてもひなんできるようにする」などの発言があった。	避難訓練(1月)

33	横須賀市	小6	特別活動	不審者侵入時訓練	池田小学校の事件にふれた。実際に同じ小学生が何人も被害にあっていることを知った。自分がその場状況になったときに、正しい行動ができるかどうかを考えた。その中で、自分の命は自分で守ることが大切だという声や日頃の準備が大切だという声があった。その後の避難訓練では、真剣に自分事として取り組む姿が見られた。	
34	横須賀市	小1	特別活動	防災教育	入学して半年が過ぎたころの1年生は、学校生活にも慣れ、少し気持ちに余裕が生まれしてきた頃である。そこで、今ある生活の中で、防災の視点を持ち、命を守る行動をとることについて考えることを目的とした。今回は主に地震について身近な生活の場として、学校にいるとき、家にいるとき、通学路、放課後など場面を分けて考えた。過度に怖がる必要もないが、備えておくことの大切さや保護者の方にも一緒に考えていただく時間を取ることで、防災について意識を高めることができた。	ワークシート 避難訓練の資料 校内や学区地図など
35	横須賀市	小4	特別活動	学校の施設で地震がおきたら・・・	震度6強の地震が起きたことを想定して、教室の中で危険な箇所がないかを探す活動を行った。その後、「教室以外の場所では、地震が起きた時に危険な場所はないのか」という問いから、YOKOBOカードの場所カードを活用して、実際にその場所を見て、危険箇所を探す活動を行った。子どもたちは、普段見ている場所を注意深く観察し、「実は、避難する方法がなかった」や「意外に危険な箇所であった」などの気づきを得ていた。さらに、それらの危険な箇所からどのように身を守るのかという自助の考えも表すことができた。	YOKOBOカード
36	横須賀市	小4	特別活動	食教育 「食物のルーツ」～命をいただく～	普段「食べ物」として何気なく食べている物について考えた。どこからやってくるのか。また、食べ残してしまった物はどこへいくのか。「命」の大切さを実感させるために、『いのちをいただく』という絵本を読み聞かせを行った。（牛肉がお店に並ぶまでの工程）人の命はもちろんのこと、動植物の命にも目を向けることができるように授業を行った。	(参考資料) 『いのちをいただく』 絵本
37	湘南三浦	小6	特別活動	いのちを繋ぐ大切な体	地域にお住まいの助産師をゲストティーチャーとして招き、思春期の心の変化等についてお話ししていただいた。講師からの問いかけに対し、子どもたちは積極的に発言したり対話したりしながら、命の尊さについて考えを深めた。授業のまとめでは、講師から「たくさんさんの大人に助けられここまで成長できていること」「生まれてきてくれてありがとう」というメッセージをいただき、自分の体の大切さについて改めて見つめ直す機会となった。	助産師・思春期保健相談士（性情報リテラシー教育協会認定講師）
38	湘南三浦	小1	特別活動	安全指導 「歩き方教室」	体育館には踏み切りや信号機、横断歩道などが設置され、児童は実際に指定された歩道を歩きながら交通ルールを守ることや、安全な登下校の仕方を学んだ。	警察署の職員
39	湘南三浦	小3	特別活動	自分の体を大切にしよう	水着でかくれるところをプライベートゾーンということを知り、人に見せたり触られたりせず、また、人のプライベートゾーンを見たり触ったりしないことを学習した。もし、いやなことがあったら、安心できる大人に相談すればよいことも学んだ。これからの生活の中で気を付けようという意識が高まった。	生命の安全教育動画教材 (小学校低・中学年) 1「じぶんのからだ」も 「ほかのひとのからだ」 もたいせつ

40	湘南三浦	小5	特別活動	地震に備える	自分たちが生活する地域で地震や風水害等の災害が起きた時に、自分の命を守る行動とは何かを考えた。避難訓練、ハザードマップ、帰宅支援マップ、家庭で準備している防災グッズの確認など、具体的な対策について話し合った。東日本大震災の時、岩手県釜石市の小中学生が無事だった例から、日頃の訓練と自主的に命を守る行動が取れたことについても触れ、児童の防災意識を高めた。	理科「天気の変化」 「流れる水のはたらきと土地の変化」
41	湘南三浦	小2	特別活動	防災	どんな場所で地震に遭遇しても、しっかり避難できることが大切である。家族と避難行動を共有し、家族も無事であるには、〈てんでん〉に逃げることを学んだ。また、『これでいいってことはない』という被災者の言葉を紹介し、避難訓練で学んだこと、それ以上の行動をとることができるのかを考えた。	
42	湘南三浦	小複合	特別活動	人権教育 「命の大切さ」	お腹の中での赤ちゃんの様子や出産のこと、へそ(の緒)について詳しく話を聞いた。1年生の中には生まれる(赤ちゃんの)ときに講師に関わっていた子もいたようで、より自分事として捉えられているように感じた。「みんなが生まれてきたとき、お家の人や関わった人全員が『生まれてきてくれてありがとう。』という気持ちだったよ。」と伝えてくださった。改めて自分たちは多くの人に大切にされていることを知り、自分も同じように周りの人を大切にできるようにしたいという思いをもった子もいた。	講師は、市内在住助産師。 保護者にも呼びかけ、希望者には参加していただいた。
43	湘南三浦	小1	特別活動	いのちをまもる (防災教育)	子どもたちが自分の「いのち」を大切にするとともに、その尊さに気付けるよう、避難訓練の事後指導として本授業を実践した。11月、本校では地震発生後、津波がくる想定で避難訓練を行った。初声小学校は海が近く、すぐ津波がくる可能性があることを教えた。その事後指導として「かぜのでんわ」の読み聞かせをした。本書は東日本大震災の際、会えなくなった人へ自分の想いを伝えられるという岩手県大槌町に設置された「風の電話ボックス」がモデルになっている。子どもたちは、お話の内容をもとに、「いのち」について考え、「いのち」は、たった一つのかげがえのないものであるということに気付くことができた。さらに、【津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」】の内容をもとにして、地震があったときに自分の命を守るために必要なことを学んだ。	・「かぜのでんわ」 金の星社 ・【津波防災啓発ビデオ 「津波からにげる」】 気象庁
44	県央	小1	特別活動	人権教育 「いじめ」	人権やいじめについての動画を見て担任の思いを聞いたり、感想を伝え合ったりするなどして人権について考える活動をした。動画を見て、誰もが気持ちよく過ごすためにはどうしたら良いか、ちくちく言葉やふわふわ言葉についても考えた。また、いじめは許さないという気持ちを育もうとした。	動画「こころんといっしょにまちたんけん」 動画 家庭人権学習動画「いじめについて」
45	県央	小1	特別活動	交通安全教室 「正しい道路の歩き方、渡り方」	学年全体指導で交通ルールや正しい歩行方法の説明を受けた。児童参加型のクイズや映像視聴のため、意欲的に取り組んでいた。 模擬道路を用いた横断歩行訓練では少人数のグループに分かれ、道路歩行や横断歩道の渡り方を体験した。状況設定を変えながら訓練し、児童が自分たちで考えて行動しているようすがみられた。訓練をとおして交通安全や危険予測に対する意識が高まり、安全教育目標の「命を大切に自ら考えて行動できる児童を目指す」をしっかりと学ぶことができた。	・講師は交通安全に詳しい警察署員、交通指導員、市役所員。 ・実物に近い模擬道路で訓練できたので、具体的なイメージをつかむことができた。

46	県央	小複合	特別活動	命の授業	継続的に高学年対象の「命の授業」を実施している。「生まれてきた自分の命の力」をテーマに、子ども権利条約や自分らしく生きるための性、命のつながりについて学んだ。人権意識の大切さや、性や命の誕生に係る専門的な内容を聞き、一人ひとりが知識を深めることができた。児童が発言したり質問に答えたりする場面や、パワーポイントの資料を視聴したので、児童が自分たちのペースで考え学ぶことができた。6年生は2回目の授業で内容を復習しながら説明が進んだが、大切なキーワードを覚えている児童が多く、指導を継続する大切さを実感した。	・講師はOffice Ladybird代表取締役。 ・参加学年は5学年と6学年が別々に受講した。
47	県央	小複合	特別活動	「いじめ根絶に向けて」 思いやりの心を育て、差別をしない・させない・許さない児童の育成	人権週間の時期に合わせて、児童会の「ハッピープロジェクト・考えて行動する ～自然・協力し合う・みんな仲良く・自分と相手～」のめあてに基づき、児童朝会の際に児童会担当の児童から取組の提案を行った。具体的な内容として、児童会で用意したカードにテーマに沿った自分の思いを記入したものを台紙に貼り、掲示を完成させるという活動を全校で取り組んだ。書かれたものから6年生がいくつか選び放送で紹介した。	全校での取組
48	県央	小3	特別活動	交通安全教育 「自分の命は自分で守る」	自転車の乗り方のルールを中心に、交通安全について話を聞いた。自転車は自動車の仲間であるという話を聞いて驚く様子が見られた。自転車の乗り方についての具体的な話を聞き、そこでのルールや標識の見方、また事故が起きてしまった事例や危険な場面を教わった。クイズに答えたり危険な自転車の乗り方を考えたりしていくうちに自分の命を守るためにルールを守ることが大事だということ、知らなかったルールがあったことに気づき、安全に自転車に乗り自分と他人の命を守っていくことを改めて強く意識していた。	講師は、厚木警察署交通課 交通総務係の職員。
49	県央	小1	特別活動	性教育 あかちゃんはどこから	赤ちゃんの人形を見たり、触れたりしながら自分の成長について考えさせた。また、資料を見ながら、赤ちゃんは父親と母親から生まれ、愛情によって育てられることを伝えた。 母親のおなかの中で赤ちゃんが成長していく様子を、実際の胎児の大きさに作った資料を提示し説明した。自分たちは、母親のおなかの中で大事に守られてきたことを実感する機会となった。	講師は担任 厚木愛甲地区小学校教育養護部会作成性教育指導案集を参考に実施した。
50	県央	小2	特別活動	性教育 おへそのひみつ	おへそのある生き物と、ない生き物についてクイズを出し、人間にはなぜおへそがあるかを考えさせた。その後、おなかの赤ちゃんはへその緒を通して、母親から栄養をもらって成長することを説明した。 自分たちはへその緒を通して栄養をもらい、大事な体が作られたこと、家族に大切にされて育てられたことを考える機会となった。	講師は担任 厚木愛甲地区小学校教育養護部会作成性教育指導案集を参考に実施した。
51	県央	小複合	特別活動	性・いのちの保健指導	各学年の発達段階に合わせ、以下のことをねらいとした授業を行った。 ・男女の体や心の成長と、それにともなう体や心の変化について理解させ、性的な発達に適切に対応できるようにする。 ・生命誕生のすばらしさを感じ、自他の生命を大切にする態度を養う。 児童は、興味をもって話を聞き、自分の身体や心、命について考えを深めていた。	小1～6まで各クラスごと養護教諭が授業

52	県央	小4	特別活動	やまと♡命の教室	体の中で命の誕生をする場所がどこなのか。命の始まりの大きさはどのくらいなのかなど、赤ちゃんとして生まれてくる前に遡り、人間の生命の誕生を考えた。また、週や月単位で子どもが大きくなることを教えてもらい、その後ビデオで赤ちゃんが実際に生まれる映像をみてお母さんが大変な思いをして生んだ命について学んだ。	・やまと♡いのちの教室プロジェクトチーム。 ・プレゼンテーションソフトとDVDを用いての内容だったため興味を持って学習することができた
53	県央	小4	特別活動	いのちの授業	・赤ちゃんが生まれてくるまで、生まれるときのお話。 大和市立病院産婦人科の助産師の方に来ていただき、お話をしていただいた。母親のおなかの中での成長の様子（小さな受精卵が約3000gにまで成長する様子）、おなかの中にいるときからとても大切に思われてきたこと、生まれた時の家族の喜び、現在に至るまでの家族や周囲の愛情などについて学び、命の大切さと命の重さについて考えた。また、人形を使って乳幼児の抱っこ体験をした。	講師：大和市立病院看護部 こども部すくすく子育て課
54	県央	小1	特別活動	生命（いのち）の安全教育	・養護教諭と人権担当を中心に発達段階に応じた「生命（いのち）の安全教育」を実施した（1年～6年）。 ・生命の尊さについて学ぶことを通して、自分を大切にするとともに、他の人も大切に考えることや態度を養うことをねらいとした。 ・自分の体も他の人の体も大切であることを理解するために絵本を活用し、プライベートゾーンを見られそうになったり触られそうになったりしたときに取るべき対応方法について学んだ。	・『おしえて！くもくん～プライベートゾーンってなあに？』 (株) 東山書房
55	県央	小1	特別活動	防災教室「地震から命を守る」	地震があった時、教室にいた場合どのような動きをするか1学期に確認した。2学期は、学校生活（教室以外の場所）に地震があった時にどこに避難するか確認した。あらゆる場所での災害を想定し避難の仕方を児童とともに考え、確認し合えた。	
56	県央	小4	特別活動	自然災害から身を守る行動	日常生活の中で起こりえるあらゆる災害を調べ、その時に祖身の回りで何が起こるか学習した。災害が起こる前、起こった後にすべき行動を話し合い自助、共助では具体的に何をすべきか考えた。防災センターで学習したことを振り返ることをした。	
57	県央	小1	特別活動	食育「やさいをしろう」	授業の内容は主に、①野菜あてっこゲームをする②野菜の働きを知る、である。様々な野菜に実際に触れることで、野菜に興味を持つだけでなく、野菜の働きに驚き、関心を深めた児童が多かった。授業の初めに、野菜が苦手な児童に挙手させるとクラスの半分ほどが手を挙げたが、授業後の振り返りではその児童たちから「野菜にはすごい力があると分かった」「給食の野菜を食べて体の栄養にしたい」という声が挙がった。短い時間ではあったが、野菜に興味を持ち、食べてみようとする動機付けとなった。	栄養教諭をT2に迎えた。
58	県央	小複合	特別活動	いじめ防止	「暴言暴力、いじめ防止スローガン」に合わせ、いじめに繋がる事案の例を児童会役員の児童が劇で紹介し、全校に考えさせる機会を作った。各クラスで、暴言暴力やいじめについて学年・学級に合わせて、改めて1人ひとり考え、それぞれの考えを伝え合うことで、暴言暴力、いじめ防止ができるように指導した。	小複合 1～6の全学年

59	県央	小複合	特別活動	<p>①子どものからだ～二次性徴から命のリレーまで～</p> <p>②思春期の心について～自分の心との付き合い方～</p>	<p>思春期の成長における様々な心身の変化や悩み、その対処法などについて、「身体」と「心」の双方からご講義いただいた。</p> <p>①綾瀬市保健福祉プラザの役割（赤ちゃんの定期健診、子育て支援事業など）を知った。そこで自分たちの身体の健康が小さな頃から支えられてきたことや、命のかけがえのなさや大切さを再認識することができていた。</p> <p>②思春期になると自他を比較したり、自分の存在意義について悩んだりすることが増え、負の感情や葛藤する気持ちとどう向き合うかが課題となる。しかし、それらは成長に必要なものであり、それを対処するために親や友達だけでなく、カウンセラーや電話相談、メールなどいろいろな機関で相談ができると知ることができた。</p>	<p>①綾瀬市健康づくり推進課の保健師</p> <p>②綾北小学校スクールカウンセラー</p>
60	県央	小5	特別活動	多様性	<p>背丈や髪長さなど目に見える違いだけでなく、性格や苦手なことなど目に見えない違いについて知り、苦手なことがあっても他の人の助けを借りたり、得意なことを生かしたりして生活をしていくことの大切さを学んだ。講義を聞いて、『目には見えなくても自分と相手は違うことを理解し、「実は〇〇かもしれない」と考えることが大切である』と振り返った児童もいた。</p>	<p>講師：綾瀬市社会福祉協議会「あやせボランティアセンター」職員</p>
61	県央	小5	特別活動	障害者理解	<p>車椅子バスケットボール体験を通して、車椅子の操作方法を学んだり、ミニゲームに挑戦したりすることで、障害者スポーツの面白さを知った。また、選手の実体験や日常生活の話聞くことで、障害を抱えた人たちの想いを知り、今後どのように自分たちが関わっていけばよいのか、学ぶことができた。</p>	<p>講師：相模フォース選手</p>
62	県央	小複合	特別活動	防災教育地震から命を守る	<p>関東大震災がおきた9/1に過去の地震の被害を動画で振り返り、シェイクアウト訓練の意義と対処の仕方を指導し自分の命は自分で守る意識を高める。実際にシェイクアウトを行い実践力を高める。</p>	<p>全校児童 関東大震災復興100年教材 かなかな家族『シェイクアウトって何？』</p>
63	中	小2	特別活動	生命の尊さ	<p>生活科「生き物なかよし大作戦」の学習で、かいこの飼育を通して、命をかけて生きるかいこの生き方から、生命の神秘・尊さと、人間が生きているということについてクラスで考えを深めた。</p>	
64	中	小複合	特別活動	心とからだの安全 「自分や他の人のからだを大切にするために」	<p>プライベートゾーンの話から、自分の体は自分だけの大切なものであると理解すると共に、他の人の体も大切にしなければならないことを学んだ。人と接するときには「心の距離感」と「からだの距離感」があることを理解し、程よい距離感を保つことの重要性を感じることができた。また、近年ではSNSを介した問題も多くなっていることから、心とからだを守るためのSNSの安全な使い方や近くの人と相談することの大切さを確認した。</p>	

65	中	小4	特別活動	いのちの授業 ～いのちを大切にしよう～	<p>&lt;院長先生による講話&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子と女の子の体のしくみのちがいがい</li> <li>・思春期におこる変化について</li> </ul> <p>&lt;助産師さんによる講話&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いのちとは何か（動画視聴）</li> <li>・性について</li> <li>・自分の気持ちや他人とのちがいについて</li> <li>・自分を大切にする方法</li> </ul> <p>実際に現場で働いている産婦人科の医師の方からの話を聞いたり、貴重な映像を見せていただいたりして、真剣に聞こうとする様子が見られた。教科書を使用した保健の学習での知識だけでなく、自分も相手も大切にすることの重要性を学ぶことができ、よい機会になった。</p>	
66	中	小3	特別活動	「命のはじまり」	<p>自分の命のはじまりの大きさについて知り、精子と卵子の出会いについて学習した。命の始まりの小ささに驚くとともに、自分はずごい存在なんだと感じた子が多くおり、自分と同じようにクラスにいる全員の命の尊さについて考えた。また感想には「お父さんお母さんいっぱい頑張ってくれたから感謝している」とあり、家族に感謝の気持ちをもつことができた。さらに”いのちのまつり”という絵本を読み、「ご先祖様がいなかったら生まれなかった」と、命のつながりについても考えることができた。</p>	
67	中	小2	特別活動	「みんながえがおでいるために」	<p>学校生活で起きる出来事について、登場人物の言動や気持ちを考えることを通して、相手の気持ちを思いやることの大切さに気付かせ、「相手を傷つけるような言動をしない、許さない」という気持ちを養うことをねらいとした授業実践を行った。動画を視聴し「似た体験がないか」や「自分ならどうするか」を考え、素敵だと感じた子に宛てて手紙を書いた。また、それを全体で共有することで、楽しく勉強したり遊んだりするために大切なこと、自分にできることを一人一人が考えた。「言葉一つで相手の気持ちを温かくすることも傷つけることもできること」と「相手を思いやる言葉を使うことが大切であること」に気付くことができた。</p>	
68	中	小2	特別活動	「おへそのひみつ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間目…「おへそがある動物・ない動物」クイズを出し、なぜおへそがあるかについて話した。その後、赤ちゃん人形を抱っこして、「こんなに重く思わなくてドキドキした」「自分もこうだったんだなと思った」という感想があがった。</li> <li>・2時間目…妊娠9か月のお母さんをスペシャルゲストとしてお招きし、おなかを触らせていただいたり、今の幸せな気持ちや不安な気持ちをお話ししていただいたりした。</li> </ul> <p>前もって全員の保護者の方に、子どもの名前の由来や生まれたときの気持ちを手紙につづっていただき、それぞれみんなの前で読んだ。「ここまで大事に育ててくれたんだ」「家族にありがとうと伝えたい」という感謝の気持ちをもつことができた。</p>	

69	中	小3	特別活動	いのちのつながり	生命のはじまりと誕生について理解するために、胎児の成長図を見たり、赤ちゃん人形を抱いて大きさや抱いた時の様子などの感想を伝えたりする活動を行った。さらに、親やその親から命を受け継いで今の自分があることを知るために、絵本「いのちのまつり」の一部を掲示し、命のつながりを視覚的に捉えるようにした。授業後の感想では、「自分が大切にされていることが分かった」、「たくさんの命がつながって自分がいるから、自分を大切にする」など周りの人への感謝の気持ちや、自他の命を大切にしようとする意見があがった。	
70	中	小6	特別活動	薬物乱用防止教室	導入では、身近な市販薬について触れられ、回数や量のルールを守って服用することの確認があった。過剰服用（オーバードーズ）は体にダメージを与えることも説明され、薬の害について理解を深めた。講師から〇×クイズ形式の問題が出されたり、質問形式で授業が進んだりして、児童は主体的に話を聞くことができていた。また、薬物の写真やワークシートを使って学習が進められ、児童にとって分かりやすく授業が展開され、じっくりと集中して、真剣な表情で聞く児童の姿も見られた。	
71	中	小2	特別活動	大切ないのち	生活科の「あしたへジャンプ」の学習に関連付けて、名前の由来や、卒園・入学時の両親の思いを確認した。「健やかに育ててほしい」「人に優しくあってほしい」というような両親の願いが名前に込められていることを知り、式典で見せる自身の姿を思い出してもらいながら両親の話を聞いたことを、教室で児童が語った。今の自分が在るのも、保護者の深い愛情のおかげであることを改めて確認することができた。また、出産シーンの映像を観ることで、母親が一生懸命になって産もうと頑張る姿に心打たれ、生んでくれたことに感謝の意を伝えたいと思い、命を大切にしていきたいと考える児童がいた。	
72	中	小1	特別活動	保健教育 「たいせつなからだ」	1年生を対象に、体の大切さやプライベートゾーンの重要性を学ぶ授業を行った。まず、体のパーツクイズを通じて、体の部位にはそれぞれ役割があることを意識した。次に、絵本「おしえてくもくん」を読み、プライベートゾーンの重要性を学んだ。プライベートゾーンは命を繋ぐために大切な器官であることを知り、そのプライベートゾーンを大切にする方法（体を清潔に保つ方法や、守るためのお約束、守られなかった場合の対処方法）について学んだ。	講師：養護教諭 絵本：「おしえてくもくん」 パワーポイント 黒板掲示物 ワークシート ほけんだより
73	中	小3	特別活動	いのちの始まり～ たくさんの奇跡～	絵本「いのちのまつりヌチヌグスージ」等を教材に、赤ちゃんが母親のおなかの中で、受精卵から少しずつ人間らしい形に変化し、「50cm、3,000g」ほどの大きさで誕生することを学習し、児童は、ここまで生きてきた9年間の成長過程が「当たり前」ではないことに気づいた。また、自身の誕生には「ご先祖さま」の存在が不可欠であることや、母親たちが不妊症や流産等の妊娠期のトラブルを乗り越えてきたことも学んだ。そして、生まれた後も病気や事故、事件、災害等を乗り越え、たくさんの奇跡とたくさんの愛情があつて、自分のいのちがあることに気づいた。これまで自分は家族や周りの人たちにどのようなことをしてらってきたのかをふり返るとともに、次の新しいいのちのために自分はどのようなことができるのかを考え、いのちを大切にすることを学んだ。	養護教諭がT1として指導

74	中	小2	特別活動	いのちの学習	<p>養護教諭による「いのちの授業 おへそのひみつ」についての学習を行った。児童は、写真やイラストなどを見て、おへそはお母さんと赤ちゃんをつなぐ大切な「へその緒」の跡であることを学んだ。</p> <p>自分たちのいのちは、お母さんのお腹の中で、きれいな空気や栄養、病気と闘う力を与えてもらい、不要になったものをひきとってもらうなど、大切に守られながら育まれてきたことに気付いたり、おへそはその大切なものの跡であることなど、いのちの素晴らしさを感じる事ができた。</p>	<p>養護教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や妊婦のイラスト</li> <li>・お母さんと胎児がへその緒でつながったモデルを示すタペストリー等</li> </ul>
75	中	小2	特別活動	アサーションワーク ～3つの話し方～	<p>人とやりとりするときの三つの話し方を、ロールプレイで児童が体験した。「おどおどさん」「いばりやさん」「さわやかさん」の3人の話し方は、言い方や態度が違っており、印象が異なることが分かった。気持ちを伝える側も受け取る側もどちらも気持ちのよい話し方は、「さわやかさん」だけだったことを理解した。「これからは自分も相手も大切に話す話し方を意識して、自分の気持ちを伝えたい。」と児童が振り返り、感想を述べていた。</p>	<p>担任が指導</p>
76	中	小5	特別活動	防災教育「災害から命を守ろう」	<p>避難所運営ゲームを通して、大きな災害が起こった時の避難の仕方や、避難所としての学校の体育館などの公共施設での生活について知った。また、避難所運営を手伝うシミュレーションを行うことで、避難所には様々な人が訪れることを知り、相手を尊重した行動をとることの大切さに気づいた。振り返りを行うと、災害時に自分や他者のことを思いやり助け合うことの大切さに気づき、自分に何ができるのか考える児童が増えた。</p>	<p>活用資料 避難所運営ゲーム (WEBページ「情熱と不屈の精神」/宮崎 賢哉さん 災害支援・防災教育コーディネーター/社会福祉士)</p>
77	中	小複合	特別活動	「生きているだけで100点満点」	<p>いのちが一番大切であること、「自分のいのち」＝「自分の体、心を含む自分のすべて」であり、こうしていきっていることにこそ価値がある「生きているだけで100点満点」であることを学ぶ。「ヒトの誕生」を振り返りながら、自分自身も小さな受精卵だったころがあり、子宮の中で成長し、命がけで生まれてきたことを自分のこととして感じてもらう。今回は「自分」にスポットを当て、今ここまで成長したことは、自分にたくましい生きる力があつたからであり、自分自身がかけがえのない大切な存在であることへの気づきと、生まれてきてくれてありがとうの気持ちを伝えてもらう。</p>	
78	県西	小複合	特別活動	防災教育 学校保健委員会 「地域の防災について知ろう」	<p>東日本大震災から12年が経ち、生まれる前に震災があったという児童がほとんどである。災害を決して忘れずに、子ども達自身が、災害時に適切な判断ができる力を身に付けていくことができるよう登下校が同じ地域の児童が集まり、地図上の危ない箇所を印をつけ、どのように身を守るか話し合った。避難場所や緊急時についての話し合いもし、自分の命を守る術を知り、防災意識を高めることができた。</p>	<p>養護教諭・各担当教員 参考資料「わ！たこやきおとうさんをさがせ」「おおじんさがしてはしってまもるんだ」(清水菜穂文・監修石塚ワカメ岩崎書店)</p>

79	県西	小複合	特別活動	防犯教育	<p>警察署のスクールサポーターを講師に招いて、防犯訓練及び防犯講話を行った。訓練では、2名の講師のうちの1名に不審者役を演じていただき、不審者が校内に侵入してきたらどうすればよいのか、実践を通して、自分たちのいのちを守るために各自がとるべき行動について考えた。</p> <p>講話では、訓練の様子についての総括や未然防止のためにできることについて、具体的にわかりやすくお話していただき、児童も職員も真剣に学習することができた。</p>	講師 小田原警察署生活安全課 スクールサポーター 2名
80	県西	小5	特別活動	命の授業 「親子教室」	自分たちが生まれてきたことの大切さに気付き、親子の愛情や絆について深く考えた。	講師 NPO法人 mama's hug
81	県西	小複合	特別活動	避難訓練	<p>全校一斉による予告なしの避難訓練を行った。内容は地震発生後、火災が発生したため、各自で退避行動をとり、集合場所に避難した。休み時間だったため、校庭で遊んでいる児童や特別教室にいる児童など、各々が様々な場所にいた。地震の放送が流れると、身の安全を確保し、その後、近くの教室や校庭の中央に集まることになった。下学年の児童が不安になっていたため、声掛けの必要性を感じた。全員が3分以内に校舎から素早く避難することができ、命を守るとはどうしたらよいかを考えることができた。</p>	訓練5分前位に小田原消防本部へ連絡した。
82	県西	小複合	特別活動	中学校区合同 引き取り訓練	<p>1日に中学校区の学校が合同で「小中合同防災引き取り訓練」を行った。複数学校が合同で行い、より緊急時に近い形を目指した。</p> <p>訓練では、緊急地震速報が発令された後、保護者は、その場から学校へ向かい、児童の引き取りを行った。また、災害発生を想定し、原則として徒歩で児童を引き取ることにした。</p> <p>保護者は、訓練の情報を受け取った場所から移動したため、家庭によって引き取り時間の差がでた。心配しながら保護者を待つ児童、3校も回らなくてはならない家庭など、緊張感のある引き取り訓練となった。下校では、危険箇所を確認し、災害時にはどうしたら自分の命を安全に守ることができるのか考える機会になった。</p>	
83	県西	小複合	特別活動	学校保健委員会 「言葉の力」～ 言いかえ上手で ぼかぼかハート ～	<p>7月の「自分をしりたいやき月間」では、短所を長所に言い換えることを「たいやき」の絵の表裏の両面を使って表現し、11月には「友だちへの伝え方を考えたいやき月間」を実施して、多様な考え方、意見があることを学んだ。各学年で“ある場面”について相手に自分の気持ちを分かってもらうには、どのように伝えたらよいかについて話し合い、学校保健委員会で発表し、前向きな言葉や考え方に変える「リフレーミング」について全校で学ぶことができた。自分や他者に対し、理解を深めることにつながった。</p>	<p>「短所を長所に変えたいやき」 (株式会社アイアップ)</p> <p>「マイナス思考と上手につきあう認知療法トレーニング・ブック」 (竹田伸也著)</p>